

11月の持経寺だより

令和2年

目師会・七五三祝について

子供は無上の財であると教えられています。すなわち、正法を持(たも)った親にとって子供は、大聖人の仏法を受持し、広く流布していくための大事な後継者であることから財といえるのです。
 また、11月15日は第三祖日目(にちもく)上人の祥月(しょうつき)命日にあたっています。広宣流布の暁(あかつき)には、日目上人が出現されるという、宗門古来のいい伝えがあります。
 したがって、この意義ある日に寺院に参詣して仏祖三宝(さんぼう)に御報恩申し上げ、未来における広布の担(に)ない手である子供の息災(そくさい)と成長、さらに信心倍増を祈念することが大事なのです。



日	月	火	水	木	金	土
1 一日詣り/永代経 (午前10時) 広布唱題会 (午後1時)	2	3	4	5 僧俗指導会 (午後1時/応願寺) 代表者のみ	6	7 寺院清掃 (10時のお経終了後)
100日唱題行 午前9時、夕勤行後 1時間唱題						
8 御報恩御講 (午後1時)	9	10	11	12	13 御報恩題目講 (午後7時)	14
100日唱題行 午前9時、夕勤行後 1時間唱題						
15 目師会・七五三祝 (午後1時)	16	17	18	19	20	21 寺院清掃 (午前10時)
100日唱題行 午前9時、夕勤行後 1時間唱題						
22	23	24	25	26	27	28
100日唱題行 午前9時、夕勤行後 1時間唱題						
29 ひねもす唱題会 (午前8時~午後6時)	30	11月29日(日)ひねもす唱題会 割り当て 午前 8時~午前10時 京浜総地区 午前10時~午後12時 川崎中総地区 午後12時~午後 2時 川崎北総地区 午後 2時~午後 4時 横浜北総地区				
100日唱題行 午前9時、夕勤行後 1時間唱題						

【重要】新型コロナウイルス感染症への対応について



新型コロナウイルスは感染力が強いため、多くの人が集まる行事等などでは集団感染の恐れがあるため、支部として参詣の自粛をお願い致します。参詣する場合は万全の態勢で、マスク着用、参詣時のアルコール消毒などの徹底をお願い致します。また、発熱・咳・体調不良など体に異変がある場合の参詣は御遠慮願います。



御法主日如上人貌下御指南

百日間唱題行（九月七日）の御

皆様方には既に御承知の通り、今回、本日より十二月十五日までの百日間、宗祖日蓮大聖人御聖誕八百年慶祝、法華講員八万人体勢構築の誓願達成を目指して、宗内全寺院および全家庭において、一斉に百日間唱題行を実施することになりました。

これは、宗内の全僧俗が一日二時間の唱題行を百日間行い、その功德と歓喜をもって、世界に蔓延しているコロナ禍や異常気象による災害など、眼前に立ち塞がる様々な難事・難局を乗り越え、折伏の大前進を図るためであります。

したがって、そのためには唱題が唱題のみに終わるのではなく、唱題の功德と歓喜をもって、僧俗一致・異体同心して全員が折伏に立ち上がり、打って出ることが肝要であります。

そもそも信心とは理屈ではなく、実践であります。折伏も同様であり、折伏は折伏を實踐しなければ折伏したことはありません。

大聖人は『三大秘法抄』に、

「題目とは二意有り。所謂正像と末法となり。正法には天親菩薩 竜樹菩薩、題目を唱へさせ給ひしかども、自行計りにして唱へてさて止みぬ。像法には南岳・天台等は南無妙法蓮華經と唱へ給ひて、自行の爲にして広く化他の爲に説かず。是理行の題目なり」

（御書一五九四頁）

と仰せであります。

すなわち、ここで仰せの「理行の題目」とは、正像過時の題目にして「自行の爲にして広く化他の爲に説かず」と仰せのように、自行化他にわたる信心ではなく、化他行たる折伏を忘れた信心であり、自分自身の利益のみを求めた利己的な信心であって、末法の今、大聖人の御正意にかなう信心とは言えません。

大聖人は『持妙法華問答抄』に、

「願はくは『現世安穩後生善処』の妙法を持つのみこそ、只今生の名聞後世の弄引なるべけれ。須く心を一にして南無妙法蓮華經と我も唱へ、他をも勧めんのみこそ、今生人界の思出なるべき」

（御書三〇〇頁）

と仰せであります。

まさしく「南無妙法蓮華經と我も唱へ、他をも勧めんのみこそ、今生人界の思出なるべき」との御教示を一人ひとりが心肝に染め、妙法広布に我が身を捧げ、一天広布を目

指して折伏を行っていくところに、自他共の眞の幸せを築くことができるのであります。

されば『聖愚問答抄』には、

「今の世は濁世なり、人の情もひがみゆがんで権教謗法のみ多ければ正法弘まりがたし。此の時は誦誦書写の修行も観念工夫・修練も無用なり。只折伏を行じて力あらば威勢を以て謗法をくだき、又法門を以ても邪義を責めよとなり」

（御書四〇三頁）

と、権実雑乱し、混沌とした末法今時における弘通の方途は摂受ではなく、折伏であると仰せられているのであります。

故に『如説修行抄』には、

「権実雑乱の時、法華經の御敵を責めずして山林に閉ぢ籠りて摂受の修行をせんは、豈法華經修行の時を失ふべき物怪にあらずや。されば末法今の時、法華經の折伏の修行をば誰か經文の如く行じ給へる。誰人にも坐せ、諸經は無得道墮地獄の根源、法華經独り成仏の法なりと音も惜しまずよばはり給ひて、諸宗の人法共に折伏して御覽ぜよ。三類の強敵来たらん事は疑ひ無し」

（御書六七三頁）

と仰せられています。

まさしく、五濁乱漫とした末法の今、不幸の根源たる邪義邪宗が蟠踞し、ために世の中がコロナ禍や異常気象によって騒然としている時、私どもは一人ひとりが大御本尊様への絶対の確信を持って「誰人にも坐せ、諸經は無得道墮地獄の根源、法華經独り成仏の法なりと音も惜しまずよばはり給ひて、諸宗の人法共に折伏して御覽ぜよ」との御聖訓のままに、勇猛果敢に折伏に打って出なければなりません。

『曾谷殿御返事』には、

「法華經の敵を見ながら置いてせめずんば、師檀ともに無間地獄は疑ひなかるべし。南岳大師の云はく『諸の悪人と俱に地獄に墮ちん』云云。謗法を責めずして成仏を願はば、火の中に水を求め、水の中に火を尋ぬるが如くなるべし。はかなしはかなし」

（御書一〇四〇頁）

と仰せであります。

私どもは改めて「法華經の敵を見ながら置いてせめずんば、師檀ともに無間地獄は疑ひなかるべし」との御制誡を拝し、講中一結異体同心して、いかなる困難・障害が立ちます御精進されますよう心より念じ、本日の挨拶といたします。